

平成14(2002)年度 日本語研修コース報告

留学生センター 和田 礼子

1. 1 第4期(2002年4月～2002年7月)コース概要

開講期間：平成14年4月15日(月)～平成13年7月26日(金)

開講時間数：授業は週に14コマ(1コマ90分)

時 間	月	火	水	木	金
8:50-10:20	文法	ドリル	応用	ドリル	会話
10:30-12:00	ドリル	会話	ドリル	文法	応用
12:50-2:20	漢字	漢字		作文&スピーチ コンピューター	漢字

開講レベル：日本語学習歴がゼロの学生を対象とする

使用教科書：『みんなの日本語初級』1、2(スリーエーネットワーク)

『Total Japanese Reading and Writing』(早稲田大学)

受講者：

	氏名・国籍			配置大学・学部
1	CHOHAN FARKHANDA YUSAF パキスタン	女	大使館推薦国費研究留学生	鹿大理学部
2	AHMADI インドネシア	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大水産学部
3	MICHAEL FADY RAFAT エジプト	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大水産学部
4	MOHAMED EMANABDEL-RAZAK HASSAN エジプト	女	大使館推薦国費研究留学生	鹿大理学部
5	NSIAMA TIENABE KIPASSA コンゴ	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大理学部
6	KAVANAMUR BERNARD VAISEM パプアニューギニア	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大理学部
7	THET MYO ミャンマー	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大工学部
8	BARMAN HIRAK KUMAR インド	男	大使館推薦国費研究留学生	宮崎医科大学
9	牧野アルツロ ペルー	男	県費留学生	鹿大農学部

コース日程：

- 4月4日～12日 プリセッション(ひらがな、あいさつ指導)
- 4月11日 オリエンテーション
- 4月15日 授業開始
- 5月18日、19日 多国籍合宿参加
- 5月29日 市内見学バス旅行

6月21日	日本文化体験 書道
6月24日～28日	オープンクラス、スピーチウィーク（日本語授業の公開）
7月26日	修了式 スピーチ、さくぶん発表

1. 2 受講生について

第4期の受講生は9名だった。本来研修コースの受講生が定員に満たない場合は学内公募を行うが、4期生はコース開始直前に人数の変更があったため学内公募を行うことが出来なかった。これは宮崎大学に配置予定の学生4名の予備教育受け入れが2002年後期に変更されたためである。

また、留学生センターや留学生課が新入留学生の情報を把握する時期も4月初旬であるため、公募の情報が行き渡らないことも多い。ひらがなセッションが始まってから初めて研修コースに入りたいといった希望が出されることも多い。4期の県費留学生もこのようなケースだった。

これは短期留学生や県費留学生など、留学生が来日してからでないと留学生の日本語力が分からないといった事情があるため、このような実情をふまえ公募や受講生の決定についての制度についても一度検討する必要があると思われる。

1. 3 教科書の変更

第4期では次のような理由から主教材を第3期で使用した『新日本語の基礎』から『みんなの日本語』へ変更した。

- ・『新日本語の基礎』は技術研修生を対象とした教科書で使用語彙も大学生の日常にはそぐわないものが多いが『みんなの日本語初級』は一般を対象としているため、このような問題が若干緩和される。
- ・コミュニケーションストラテジーを身に付けるための練習が多く含まれている。
- ・『みんなの日本語初級』は1巻、2巻あわせると初級で学習すべき文法項目をカバーすることができる。鹿児島大学日本語補講クラスの初級クラスでも2002年4月から主教材として使用するため、学生は研修コース修了後も一貫したカリキュラムの中でさらに上のレベルの日本語の授業を受けることができる。

また語彙リストや文法解説が英語だけでなく9か国語に対応しているという『新日本語の基礎』のメリットも損なわないことから、『みんなの日本語』を使用することとした。授業を担当した教師、また学生からは教科書について「項目が整理されていてわかりやすい」といった感想が聞かれた。この主教材に大学生活に必要な語彙とコミュニケーション要素をさらに付け加えることで、より鹿児島大学の留学生に必要なコースカリキュラムを構築していきたい。

2. 1 第5期（2002年10月～2003年3月）コース概要

開講期間：平成14年10月21日（月）～平成14年2月21日（金）

開講時間数：授業は週に15コマ（1コマ90分）

開講科目と時間

時 間	月	火	水	木	金
8：50－10：20	文法	ドリル	応用	ドリル	会話
10：30－12：00	ドリル	会話	ドリル	文法	応用
12：50－2：20	漢字	漢字	楽しい会話	作文&スピーチ コンピューター	漢字

開講レベル：日本語学習歴がゼロの学生を対象とする

使用教科書：『みんなの日本語初級』 1、2（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語漢字1』（スリーエーネットワーク）

受講生：

	氏名・国籍			配置大学・学部
1	SERAG ADAM オーストラリア	男	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大学工学部
2	TALLADA JASPER GRECIA フィリピン	男	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大学農学部
3	NGUYEN LAN THI ベトナム	女	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大学農学部
4	BONEY SANUEL KWEKU AKONDOH ガーナ	男	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大学農学部
5	NJOLOMAJOYCE PRISCA マラウイ*	女	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大学農学部
6	BOONY ARITTHONGCHAI PANIDA タイ	女	大学推薦国費研究留学生	鹿大農学部
7	UDDIN ABULFAIZMD BURHAN バングラデシュ	男	大学推薦国費研究留学生	鹿大法文学部
8	SHARIF MUHAMMAD AKHTAR パキスタン	男	大学推薦国費研究留学生	鹿大工学部
9	ARIF SATRIA インドネシア	男	大学推薦国費研究留学生	鹿大水産学部
10	CAMPOS FRANCIA IVONNE コロンビア	女	大学推薦国費研究留学生	鹿大医学部
11	DOREEN NDOSSI タンザニア	女	短期留学生	鹿大農学部
12	ASHURA KATUNZI タンザニア	女	短期留学生	鹿大農学部
13	ALLY HAMISI タンザニア	男	短期留学生	鹿大農学部
14	王 運生 中国	男	短期留学生	鹿大農学部
15	羅 棟 中国	男	短期留学生	鹿大農学部

※次の学生は日本語予備教育生であったが日本語力が中級後半と判断されたため研修コースには在籍せず、一般コースの中級コースを受講した。

氏名：Vasilenko Andrey（ロシア）（男）大使館推薦国費研究留学生

配置大学・学部：鹿児島大学工学部

※上記受講生のうち、マラウイの学生は12月中旬から入院したため、退院後は一般コース初級1のクラスに編入した。この学生には研修コースの修了証は発行せず、一般コースの修了扱いとした。

従って研修コース修了生は14名であった。

※「短期留学生」は大学間交流協定に基づく交換留学生である。

日程

10月8日～18日	プリセッション（ひらがな、あいさつ指導）
10月11日	オリエンテーション
10月21日	授業開始
11月21日	市内見学
12月17日～20日	スピーチウィーク
1月9日	日本文化体験 書道 書き初め
2月21日	修了式、ポスターセッション

2. 2 他大学に配置される学生について

第5期には鹿児島大学での予備教育修了後、宮崎大学に配置される学生が5名在籍した。これまでも他大学に配置される学生を受け入れてきたが、さまざまな配慮が必要であることを実感している。他大学に配置予定の学生で指導教官と面識のある学生はメールなどで頻繁に連絡をとるが、面識のない学生は連絡が十分取れていないケースも見られる。鹿児島大学に配置予定の学生は予備教育期間中も研究室に出入りできるため「居場所」が確保されるし、独自にチューターをつける指導教官もあり精神的に落ちつくが、宮崎大学に配置予定の学生はこのようなクラスメートを見て焦りを覚えたり不安になったりする。特に後期の学生は、大学院入試の時期や必要書類、試験の形態についてなど、指導教官との連絡を密にとる必要があり5期生で他大学に配置予定の学生にはかなり動揺がみられた。

このような状況に対処するため12月に留学生センター教官2名が宮崎大学を訪問し、指導教官および宮崎大学の留学生課と情報交換を行った。この訪問を通して留学生同様、指導教官も不安を感じているということがわかり、早い時期に一度留学生と指導教官が対面する場を作る必要があるということを痛感した。また、他大学配置の学生の後期の受け入れは学生にとっても指導教官にとっても不安やストレスを引き起こす要因が多いため、できるだけ予備教育を前期に行い、後期は配置大学で研究生として研究に入ったほうがよいという認識に至った。

また、5期生で宮崎大学に配置予定の学生1名がコース中に入院するなど、予測できない状況に際して指導教官とどのように連携を取っていくかは今後の大きな課題である。

2. 3 ポスターセッション開催について

第1期、2期、3期、4期と、コース修了時にスピーチ発表を行うと共に作文集を発行してきたが、5期では新しい試みとしてポスターセッションを行った。スピーチ発表からポスターセッションに切り替えたのは、まず5期生は15名在籍しており全員のスピーチを行うのは時間的に無理があるという点、スピーチ発表では聞きに来てくれた聴衆とのやりとりがあまりできないこと、そして、

ポスターセッションなら、短い時間しか参加できない指導教官も受け持ち学生の発表を聞くことができるという理由からである。

今回のポスターセッションは「鹿児島大学留学生センター3周年記念及び土田センター長退官記念シンポジウム」と同時開催で行った。学生はそれぞれ写真や地図などを使って自分の国や自分の専門の紹介についてのポスターを作成し、これを一つのフロアに掲示した。開催時間は9時から12時とし、自由な時間に聞きに来た人は関心を持ったポスターの所へ行き、留学生の説明を聞く。あらかた質問などが終わったら、別のポスターに移動するという形で行った。時間がなく一つのポスターだけで帰る人もいれば丹念に全てのポスターを回ってくれる人もおり、自由な形の参加が気楽でよかったという声も聞かれた。

実際にポスターセッションを行ってみて、学生は何度も自分のポスターの前で説明を繰り返し、聞きに来てくれた人とも、十分話し合うことができた。緊張もスピーチ発表ほどではなく、日本語の練習としてはこの上ない効果が得られた。学生も自分の日本語にいくらかの自信を持つことが出来たようだ。また、ここで作成したポスターは学生に渡し、今後自分の国について説明する場が与えられたときに再度使用できるよう指導した。

反省点としてはポスターとポスターの間隔が狭く、予想以上の来客で同時進行が出来なくなる場面があったことがあげられる。次回からは各ポスターの間隔を十分にとり、お互い隣の発表の邪魔にならないよう配慮したい。また、今回は学内だけでなく鹿児島市内の日本語教師要請講座にも案内の掲示を依頼した。学内からはテスト期間中ということもあり、日本人学生の参加が少なかったようだ。しかし、コース開始時に行ったひらがなボランティアの日本人学生の何人かは参加しており、留学生の日本語の上達に感心していた。

今回のポスターセッションが好評であったため、今後もスピーチという形ではなく、今回のようなポスターセッションを行っていきたいと考えている。